

様式A 国語Ⅰ（杉山明／羽原卓也）

科目にかかわる情報				
科目の 基本 情報	授業科目 (欧文)	国語Ⅰ JapaneseⅠ		単位 3
	一般・専門の別・ 学習の分野	一般・国語	授業形態・学期	講義・通年
	対象学生	1年共通	必修・必履修・ 履修選択・選択の別	必履修
	担当教員・所属	杉山明・総合理工学科情報システム系／羽原卓也・総合理工学科先進科学系		
科目の学 習・教育 内容にか かわる情 報	基礎となる学問分野	人文学／文学・言語学		
	学科学習教育目標と の関連	本科目は「① 教養豊かな実践的人間力の養成」「⑤ グローバルな視点と社会性の養成」及び「⑦ コミュニケーション力・プレゼンテーション力の育成」に相当する科目である。		
	技術者教育プログラム との関連	本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(F) コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の育成」であるが、付随的には日本文化の理解の深化が「(B) 地球的視野に立った人間性の育成」にも関与する。		
	授業の概要	高等学校検定教科書を利用して、簡単な日本古典，初歩的な中国古典，現代日本文学を読み進める。適宜，課題図書，課題作文も与える。		
	学習目的	古典，現代文を問わず，よい文章に接して自分自身の日本語力を向上させるとともに，古典を読むことによって伝統的な日本文化を理解する。		
	到達目標	1．基礎的な文語文法を理解し，簡単な日本古典を読解する。 2．基礎的な漢文訓読法を理解し，初歩的な中国古典を読解する。 3．現代日本語による文章を読解し，自己の日本語表現能力を高める。 ◎効果的な説明方法や手段を用いて，コミュニケーションを図ることができる。		
履修上の注意		本科目は1学年の課程修了のために履修(欠課時間数が所定授業時間数の3分の1以下)が必須の科目である。		
履修のアドバイス		平素の授業を大切にすることは当然だが，その他に積極的に読書をする事，文章を書くことを勧めたい。事前に教材を読んでおくこと。また漢字小テストの準備は必ずしておく。		
基礎科目		小，中学校における国語		
関連科目		国語Ⅱ（2年），国語Ⅲ（3），国語Ⅳ（4），異文化社会論（4），日本文化論（4）		

授業にかかわる情報		
授業の方法		1 週 3 単位時間のうち、1 時間を江原が担当し現代文分野を、2 時間を杉山が担当し漢文分野、古文分野を講義する。漢字小テストも毎週 1 回行う。
授 業 計 画	開講週	内容〔項目〕(指示事項)
	前期	1 週 ガイダンス 2 週 随筆・評論(現文) 旧仮名遣い・説話(古文) 訓読法・故事成語(漢文) 3 週 随筆・評論(現文) 旧仮名遣い・説話(古文) 訓読法・故事成語(漢文) 4 週 随筆・評論(現文) 旧仮名遣い・説話(古文) 訓読法・故事成語(漢文) 5 週 随筆・評論(現文) 旧仮名遣い・説話(古文) 訓読法・故事成語(漢文) 6 週 随筆・評論(現文) 旧仮名遣い・説話(古文) 訓読法・故事成語(漢文) 7 週 随筆・評論(現文) 旧仮名遣い・説話(古文) 訓読法・故事成語(漢文) 8 週 前期中間考査 9 週 前期中間考査の返却と解説 1 0 週 小説(現代文) 説話(古文) 故事成語・漢詩(漢文) 1 1 週 小説(現代文) 説話(古文) 故事成語・漢詩(漢文) 1 2 週 小説(現代文) 随筆・説話(古文) 故事成語・漢詩(漢文) 1 3 週 小説(現代文) 随筆・説話(古文) 故事成語・漢詩(漢文) 1 4 週 小説(現代文) 随筆・説話(古文) 故事成語・漢詩(漢文) (前期末考査) 1 5 週 前期末試験の返却と解説
授 業 計 画	後期	1 6 週 後期ガイダンス 1 7 週 評論(現代文) 随筆・物語(古文) 漢詩・史伝(漢文) 1 8 週 評論(現代文) 随筆・物語(古文) 漢詩・史伝(漢文) 1 9 週 評論(現代文) 随筆・物語(古文) 漢詩・史伝(漢文) 2 0 週 評論(現代文) 随筆・物語(古文) 漢詩・史伝(漢文) 2 1 週 評論(現代文) 随筆・物語(古文) 漢詩・史伝(漢文) 2 2 週 評論(現代文) 随筆・物語(古文) 漢詩・史伝(漢文) 2 3 週 後期中間考査 2 4 週 後期中間考査の返却と解説 2 5 週 小説(現代文) 物語(古文) 文章・思想(漢文) 2 6 週 小説(現代文) 物語(古文) 文章・思想(漢文) 2 7 週 小説(現代文) 物語(古文) 文章・思想(漢文) 2 8 週 小説(現代文) 物語(古文) 文章・思想(漢文) 2 9 週 小説(現代文) 物語(古文) 文章・思想(漢文) (学年末考査) 3 0 週 ・学年末考査返却と解説
教科書、教材等		教科書：「国語総合」(文部科学省検定教科書)・漢字問題集・漢文サブテキスト 参考書：指定はしないが、国語辞典、漢和辞典、古語辞典も必要。
成績評価方法		・成績は定期試験 80 % + 漢字小テスト 10 % + 課題提出物 10 % の合計から評価する。 ・定期試験は計 4 回実施し、その評価割合は同等である。各定期試験での配点は現代文・古文・漢文を 1 / 3 ずつとする。また、再試験は原則として実施しない。 ・漢字小テストは平素の授業時に行い(週 1 回)、その平均点を成績に算入

	する。再テストは原則として行わない。欠課等で小テストが受験出来なかった場合、公認欠課を除いて、当該小テストが0点となる。 ・課題提出物は長期休暇中や単元終了時に課す。詳細はその都度指示する。
受講上のアドバイス	・授業開始時刻に遅れた場合、20分までは遅刻、それ以降は欠課として扱う。 ・積極的に授業に参加することはもちろんだが、日頃から新聞、読書等、日常の言語生活の充実を図ることが、言語能力の向上に大きな影響をもたらすことを理解してほしい。 ・分からない語句を調べる習慣と繰り返し音読する習慣を身につけよう。 ・授業中に辞書を引く場合、携帯電話の辞書機能を使用することは認められない。

ルーブリック							
	理想的なレベルの目安(優)		標準的なレベルの目安(良)		未到達レベルの目安(不可)		
評価項目 1	様々な現代の文章を読んでその内容を理解し、それに対する自分の考えを持つことが出来る。		様々な現代の文章を読んでその内容を理解することが出来る。		様々な現代の文章を読んでもその内容を理解できず、またしようとししない。		
評価項目 2	辞書やテキストを用い、自発的に日本語に対する知識や語彙を増やすことが出来る。		辞書やテキストを用い、自発的に日本語に対する知識や語彙を増やす為の努力が出来る。		辞書やテキストを用いて日本語に対する知識や語彙を増やすことができず、また増やそうとししない。		
評価項目 3	古文・漢文を読み、その内容を味わうと共に、その価値を理解することが出来る。		古文・漢文を読み、その内容を理解し味わうことが出来る。		古文・漢文を読み、その内容を理解することができず、またしようとししない。		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	自己評価	課題	小テスト	合計
総合評価割合	80	0	0	0	10	10	100
基礎的能力	80	0	0	0	10	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0